



**樋口正士著『石原莞爾将帥見聞記』(原人舎、定価 1500 円+税)**

著者の樋口正士博士(68 歳)は、今号の巻頭言を執筆して下さった福岡市の泌尿器科医院の院長である。副題に「達観した生涯の陰の壮絶闘病録」とあるように、本書には昭和 21 年(1946 年)1 月 2 日の「母上永眠」から絶筆となる昭和 24 年(1949 年)6 月 7 日の「昨夜眠レズ朝甚不快 氣ノ狂ハンバカリ」という記述まで『石原日記』に綴られている症状の約 4 年半すべてを拾い出している。そこには、「昨夜以来ノ治療ニヨリ排出物多クイタミ甚シ」とか、「出血ツツキ甚シク苦シム 殆ド横ニナル能ズ」とか、とにかく「膀胱ガン」の凄まじい痛みとの苦闘の姿が読み取れる。

かつて、石原莞爾将軍についての医学的事柄は、宮本忠孝、吉武敏一などの親しい軍医が経過を書き残してくれたが、泌尿器科専門医の立場からの本格的見立ては本書が初めてとなる。本書は、父親だった軍医(少佐)の生誕 100 年と、ご自身の古希(70 歳)祝いを兼ねた平成 24 年(2012 年)に発行する予定だったが、最近、わが会の財政事情逼迫を聞き及んで、「それなら何とか本書を役立てて頂きたい」と当初予定の発行年を急遽今年に変更し、かつそのうち 350 冊をわが会に寄付して下さることになったのである。本欄を借りて、樋口博士の温かいご厚情に対して、心より感謝申し上げたい。なお、希望者には送料込み 1800 円で頒布します。書店ではお買い求めできません。

申込先 〒179-0076 東京都練馬区土支田 3-46-7 山崎方

石原莞爾平和思想研究会事務局

電話 & FAX 03-3923-1937

E-mail yamazaki890@jcom.home.ne.jp

振込先：郵便振替 00130-9-410942

## 著者のプロフィール

樋口正士(ひぐち・まさひと).....昭和 17 年(1942 年)東京都生まれ。久留米大学大学院医学科博士課程卒。樋口泌尿器科クリニック院長(昭和 51 年から福岡市南区にて開業、現在に至る)。日本泌尿器科学会認定専門医(尿路・男性性器腫瘍・尿路感染症を主に診療)。福岡市医師会理事、専務理事、副会長、会長歴任。現在、日本医師会地域医療対策委員会委員、石原莞爾平和思想研究会会員、医学博士。日本泌尿器科学会(坂口賞)、西日本泌尿器科学会(重松賞)、厚生労働大臣賞。趣味は家庭菜園(半農半医)。

## 熊谷達央著『発芽玄米で日本は明るくなる』(光の里研究所、定価 1200 円税込)

岩手県滝沢村で自給自足生活をしながら芸術作品の創作にいそしんでいる本会の会員・熊谷達央氏(65 歳)が、食を歴史的に辿って見直すことで、日本を明るく元気にしたいと二冊目の著書を今年 8 月に上梓した。前著『日本、その時とこれから』(光の里研究所)では石原莞爾將軍のことも紹介されていたが、今回も「明治から昭和にかけて」という日本の食生活の変遷を綴った項目で、「石原莞爾と宮澤賢治は同門だった」「石原さんも賢治さんも玄米を食べていた」として、写真入りで紹介している。

実は、玄米の胚芽の部分が発芽させた発芽玄米は、玄米そのものよりも栄養価に富み、食べやすくもなって「人類史上、画期的な食べ物」だが、この「最少食糧で最大の栄養効果」に注目したのは、戦前、石原將軍の側近におられた清水芳太郎(読売報知新聞嘱託)である。彼が昭和 16 年(1941 年)12 月の太平洋戦争直前に、戦時食糧政策の一環として同紙に発表したのが最初である。当時は「もやし玄米」と呼ばれ、彼は私設の理化学研究所を作って兵器の改良や経済学の著書を著し、周囲から「発明家」「博識者」として知られていた。今、時を隔てて、平和時に石原人脈の会員から発芽玄米が見直されることは、感慨深い。なお本書には、家庭で簡単に作る方法も紹介されている。

申込先 〒0200-0172 岩手県岩手郡滝沢村鶉飼上高柳 56

光の里研究所 電話 019-687-2323 FAX019-687-5172